第４学年　社会科学習指導案

１　単元名

自然災害からくらしを守る

２　単元について

本単元では、まず、自然災害から人々を守る活動について、過去に発生した地域の自然災害や、その時の関係機関の協力体制等に着目し、聞き取り調査を行う。そして、聞き取りしたことや、地図や年表等の資料で調べたことをまとめる活動を通して、地域の人々や関係機関が協力をして自然災害に対処してきたことや、今後想定される災害に対して様々な備えをしていることを理解できるようにする。次に、地域で起きている様々な自然災害は気象や地象の状況と深い関係があること等を踏まえて、日頃から気象庁等からの情報や防災情報、地域の地理的環境等に関心をもつようにする。そして、災害が起きたときに自分自身の安全を守るための行動の仕方を考えたり、自分たちにできる自然災害への備えを選択・判断したりすることができるようにする。また、単元全体を通して、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度の育成を図りたい。

単元の終末に、学んできたことを生かす学習活動として、「避難所シミュレーション」を設定する。この学習活動は、これまでの学習を基に「もしも自分たちの学校の体育館が避難所になったら」を想定し、様々な問題に対して判断を迫るものである。判断の際には、既習事項と関連付けたり、社会的事象の見方・考え方を働かせたりしながら、問題の解決に向けて広い視野から選択・判断し、表現できるようにしたい。

３　プログラミング教育の視点から

「避難所シミュレーション」では、避難所で起こった問題をどう解決するかを考え、「はい」か「いいえ」で判断して、その理由を説明する。しかし、示されている問題例では、情報量が少なく多角的に考え判断することはやや難しいと考えられる。そこで、この問題を的確に捉え、判断し、表現できるようにするためにプログラミングの考え方を取り入れる。

まず、提示された問題について、判断するために必要な情報を様々な視点から分解して捉えさせる。次に、その必要な情報について、社会的事象の見方・考え方の視点である「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」の３点から関係性を見付けて整理する。そして、必要な情報について、それぞれで状況を想定し、想定に合わせて判断するように指示する。これらの学習過程を通し、問題を多角的に捉えて判断し、その理由を説明することができるようにしたい。

また、学習活動の中で、「分けて考える」（分解して捉える）や「関係性を見いだす」、「もし○○なら」（条件分岐）、「組み合わせる」の考え方を明示することで、プログラミング的思考の育成へとつなげたい。本時では特に、「状況を想定し、想定（条件）に合わせて行動を判断する」場面で、「もし○○なら○○する」という条件分岐の考え方をプログラミング教育の視点として意識させたい。

４　単元の全体計画（全10時間　本時　10／10）

　第１次　単元の導入　　　　　　　　 　１時間

　第２次　つかむ（地震が起きたら、地震とわたしたちの生活）　　　　 　２時間

　第３次　調べる（家庭でそなえているもの、学校や通学路でそなえているもの、

　市の取組、市と住民の協力、住民どうしの協力）　 　５時間

　第４次　まとめる（地震から暮らしを守る取組をまとめる）　　　　 　１時間

　第５次　生かす（避難所シミュレーション） 　１時間

５　授業パッケージ

　　指導案、提示用教材、カード教材

６　本時の学習

(1)ねらい

　　・問題に対し、避難所職員の立場でどのように判断するか、その理由を説明することができる。

・災害の状況を想定し、想定（条件）に合わせて行動を判断することができる。（プログラミング教育の視点）

(2)展開

|  |  |
| --- | --- |
| 学習活動と児童の思考の流れ（配時） | 指導上の留意点 （◆評価＜方法＞）  ○プログラミング教育の視点 |
| １　大地震が起こり自分達が通う学校が避難所になったら、どのようになるのか概要を知る。（３分）  　・学校にある避難所用備品  　・学校のどこを避難所として使うのか　等  ２　本時の目当てを確認し、「ひなん所シミュレーション」の進め方の説明を聞く。（５分）  もし、自分がひなん所のしょく員なら、どのように考え、はんだんするか、説明しよう。  ３　問題に対する判断とその理由について考える。　　　　　　　　　　　　　　（12分）  立場：ひなん所のしょく員  問題：ひなん所になっている体育館には300人います。200人分のおべんとうがとどきました。このおべんとうをすぐに配りますか。  判断：はい　･･･配る  　　　いいえ･･･配らない  ＜判断するために必要な情報の例＞  ・空間：周辺の道路や建物の被害状況  ・時間：季節、時刻、地震発生からの経過  ・人　：避難所にどのような人がいるのか  ４　想定した状況と判断、その理由を説明する。（15分）    　・想定 ：冬で、後から追加の弁当が届く  　　判断 ：いいえ  　　理由 ：今、全員に公平に配るのは難しい。寒いから弁当をしばらく置いておいても大丈夫だから。  　・想定 ：夏で、追加の弁当が届くか分からない  　　判断 ：はい  理由 ：傷んでしまうともったいないから。病気の人やお年寄り、小さい子から優先して配ればいい。  ５　友達の意見を聞いて、さらに考えたことなどを発表する。（５分）  　・想定は同じで選択が違ったけど、○○のことを考えるとその選択も納得できた。  ６　振り返りをする。（５分）  　・判断の理由をはっきりさせて説明することで納得してもらえる。  　・いろいろな状況を組み合わせて判断することが大切だ。 | ・各学校や自治体で作成された学校避難所運営マニュアル等を紹介し、概要を説明する。  ・カードに書かれた問題に対して、自分ならどうするかを考え、判断してその理由を述べることを確認する。  ・判断するためにさらに必要な情報はないか考えさせる。既習事項と関連付けながら、様々な視点から挙げさせたい。  ・挙げられた意見の関係性に着目して、社会的事象の見方・考え方の視点から整理する。  ・情報がない部分は、それぞれで状況を想定して考え、判断することを確認する。  ・児童の実態により、統一する状況と想定する状況を全体で共通して設定する。  　＜統一する状況の例＞  震度、被害状況、経過時間  　＜想定する状況の例＞  　　季節、時刻、追加の弁当が届くかどうか  ・個人で考えた後、グループで想定する状況を決め、その想定の下での判断について検討することを確認する。  ・様々な判断理由について考えられるように、同じ想定でありながらも判断が異なるグループを意図的に取り上げる。  ・各グループの状況の想定や判断の共通点や相違点とその理由が明確になるよう板書に位置付ける。  ◆問題に対し、どのように行動するか、判断してその理由を説明している。  （思考・判断・表現）＜観察、ノート＞  ・いろいろな人の立場から多角的に考えることの大切さや、状況を把握し、根拠をもって判断する必要があることに気付かせたい。  〇問題解決の中で、「分けて考える」や「関係性を捉える」、「もし○○なら」「組み合わせる」という考え方を用いたことを、カードを提示しながら確認する。 |